

基礎病態・社会医学演習

責任者・コーディネーター	機能病態学分野 増田 友之 教授		
担当講座・学科(分野)	機能病態学分野、分子医化学分野、感染症学・免疫学分野、医学教育学分野、病理診断学講座、衛生学公衆衛生学講座、情報伝達医学分野、放射線医学講座		
担当教員	増田 友之 教授、佐藤 孝 教授、古山 和道 教授、村木 靖 教授、佐藤 洋一 教授、久保田 美子 准教授、石田 和之 特任准教授、吉野 直人 特任准教授、上杉 憲幸 講師、田鎖 愛理 講師、刑部 光正 講師、近藤 ゆき子 講師、鈴木 智大 助教		
対象学年	3	区分・時間数	演習 21.0 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

医療の実践には、医学領域に関する基盤知識の修得ばかりでなく、個々の患者の病態生理を正確に把握し、適切な治療に結びつける問題解決能力を必要とする。そのためには、生命科学や衛生環境を含む基礎医学と各種疾病の病因、病態に関する知識を統合する能力が要求される。本演習では、2学年で学んだ基礎医科学の知識と3学年前期で学んだ疾病の病因・病態生理、診断に関する基盤知識を統合・整理する能力を演習形式で涵養する。

・教育成果（アウトカム）

診断・治療の実践に必要な、基礎医科学（基礎医学・生命科学）と疾病の病因・病態に関する基盤知識を統合して、病態生理を理解し問題を解決する能力を示すことができる。

（ディプロマ・ポリシー：2）

・到達目標（SBO）

個々の行動目標は授業担当者毎に授業の開始時に提示される。

以下、基礎病態・社会医学演習として行動目標の概要を示す。

- 1) 演習問題の作問意図を指摘できる。
- 2) 演習問題の関連知識を説明できる。
- 3) 正解を導くに至った基礎知識と思考過程を説明できる。

・ 講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/11	火	2	病理診断学講座	上杉 憲幸 講師	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習
4/18	火	2	機能病態学分野	佐藤 孝 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習
4/25	火	2	分子医化学分野	古山 和道 教授	分子生物学で履修した内容の演習
4/26	水	3	分子医化学分野	久保田 美子 准教授	分子生物学で履修した内容の演習
4/26	水	4	衛生学公衆衛生学講座	田鎖 愛理 講師	疫学・環境医学で履修した内容の演習
5/16	火	2	病理診断学講座	刑部 光正 講師	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習
5/19	金	4	機能病態学分野	増田 友之 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習
5/26	金	1	感染症学・免疫学分野	村木 靖 教授	微生物学で履修した内容の演習
6/2	金	1	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	臨床解剖学で履修した内容の演習
6/16	金	1	病理診断学講座	石田 和之 特任准教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習
6/23	金	1	放射線医学講座	鈴木 智大 助教	【特別講義】正常画像について
7/3	月	1	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 講師	薬理学で履修した内容の演習
7/5	水	3	感染症学・免疫学分野	吉野 直人 特任准教授	免疫学で履修した内容の演習
7/5	水	4	機能病態学分野	増田 友之 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	カラー図解 これならわかる 薬理学 第2版	Heinz Luellmann, Klaus Mohr, Lutz Hein 著、佐藤俊明訳	メディカルサイエ ンスインターナシ ヨナル	2012

・成績評価方法

統合型試験を実施し、評価を行う。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
	デスクトップパソコン iMac	1	講義資料作製